

暑中お見舞い申し上げます

東京はマニラより暑い！下記のシンポジウムで来日したフィリピン人 NGO スタッフが驚いていました。会員の皆さま、体調をくずさぬよう夏を乗り切ってくださいね。秋には各種フェスティバルやバザー、セミナーが開催されます。お会いできることを楽しみにしております。



2008年7月31日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

<http://www.jca.apc.org/~hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

日比 NGO シンポジウムと PFP 事務局長ロニーさん来日

「ミレニアム開発目標に向けてのフィリピン貧困層のエンパワーメント—日比 NGO のパートナーシップ構築—」というテーマで、7月17日から東京で開催された第2回日比 NGO シンポジウムは、最終日の19日に「日比 NGO パートナーシップ基金(仮称)設立に向けて作業部会を発足させる」という東京宣言を採択して無事終了しました。



分科会の発表 (九島さんとジルさん)

参加したフィリピンの NGO 及び NGO ネットワークの代表は、18 団体 23 名。迎える日本側は 15 団体とやや少なめ。HANDS は、フィ

ピンの貧困問題解決には NGO の連携・協力が不可欠という立場で準備段階から深く関わり、当日は少数民族分科会を担当しました。

準備を進める中で HANDS の4つのパートナー、CMIP、PIHS、PFP、COWHED のうちどの団体を招聘するか苦慮しました。結局、シンポジウムの目標に「ODA 資金受け皿としての日比協働基金構想」があるため、今年度外務省の「草の根人間の安全保障無償資金」を受けて、山岳部の 6 村で簡易水道を建設している PFP から招くことに決めました。

山村で各種プロジェクトモニターに忙しい PFP 事務局長ロニーさんにとって、その合間にパスポートやビザの手続きをするのは大変だったようです。ビザ取得が分かったのはマニラを発つ 2 日前でした。

— 広がるネットワーク、「KASAPI」との出会い —

シンポジウム初日午後の少数民族部会では、ロニ

ーさんの事例発表に続いて、元 KASAPI 代表のジルバート(ジル)さんがフィリピンの先住民族事情を報告しました。KASAPI はフィリピンの 127 少数民族がもつ先祖伝来の土地、自決、文化的独自性の権利承認を求めている全国組織で、ジルさんから先祖伝来の土地保証地域と、政府が許可した無数の鉱山開発地点の分布をオーバーラップした図を見せられた時には衝撃を覚えました。民族の先祖伝来の土地と鉱山開発地点は見事に重なっているのです。

1987 年憲法で先住民族の権利を明記し、1997 年の先住民族権利法で土地権を保証したのがフィリピン政府なら、先住民族地域で鉱山開発を許可しているのも同じ政府です。先進的憲法や法律を有しながら、実際には先住民族が土地を追われているフィリピン社会で、住民組織と地域及び全国レベルの NGO の連携がますます重要になっていると感じました。

今回初めて KASAPI の存在を知ったロニーさん。ジルさんから 11 月マニラで開催される少数民族のための全国会議のことを聞き、出席を考えているようです。

旧交を温め、新しいつながりも (歓迎会スナップ)



左から: ロニーさんと旧知の鈴木元理事・仲井間・九島・山崎、紛争地ピキットのイスラム指導者オマール氏・ロニーさん・ミンダナオ子ども図書館松居氏・金野 (撮影・玉置氏)